

被災地に学ぶ旅～福島・宮城・岩手～

名古屋YWCAは東日本大震災後、支援プロジェクトを立ち上げ（1）シンチ・ハート・チーム(新地町の小学校とつなぐテレビ電話)(2)あるがままチーム（愛知近隣に來られた方々のつながりの場の提供）（3）チャリティイベントチーム（4）支援品 支援募金チーム を4つの柱として活動を行っている。そして今夏、福島の子供たちに安心して外で思いっきり遊んで欲しいという思いで「名古屋いりゃあせツアー」を企画し、福島の各地から11家族をお招きした。交流をする中で、やはり被災地に足を運び、見て・聞いて・触れ合いたいという思いが強くなり、一つの旅の企画が立てられた。その企画は、「被災地に学ぶ旅～福島・宮城・岩手～」と名づけられた。以下、その同行報告を記す。

（1）福島見学

福島では、まず福島YWCAの方々の案内で福島市内のモニタリングポストを見学した。名古屋市の数値よりかなり高いことに驚きを感じる。

その後、この夏に桃を取り寄せてご縁のあった菊田果樹園を訪問。ご夫妻から福島市における果樹生産と出荷の状況についてお話を伺った。「販売状況は決してよくないが、めげずにやっていくよりほかに他ない・・・」とのこと。目の前には、出荷間近のリンゴがたわわに実る。「もいで持って帰って下さい！」との声を頂き、リンゴ狩り気分を味わいながら、2個大事にカバンに入れた。

続いて、飯坂温泉旧堀切邸を見学。静かで趣深いたたずまいの町並みは、ゆっくり散策したいと思わせる場所であった。しかし、観光客は激減した様子であり、町の人たちの表情には厳しさがあらわであった。

その後、フルーツラインを走り、日本YWCA被災地支援事務所「カーロふくしま」へ。カーロとはイタリア語で「たいせつな・親愛な」という意味とのことである。

夕食交流会では福島YWCAの方々、いりゃあせツアーに参加にされた方々と一緒に懐かしく楽しいひとときを過ごした。放射線量の高い中で暮らす不安も語られ、原発の危険性を再認識した。



（2）アミマーさんたちとの出会い

翌日は盛岡へ向かう。東北ヘルプの方々の出迎えをうけ、車に分乗してハートニットプロジェクト事務局へ。

「ハートニット」とは、岩手県沿岸部の仮設住宅住民の方々に編み物を習得して頂いて「手仕事」を作ろうとするプロジェクトである。震災後、食が届き、衣が届き、暖が確保されてくるうちに、次には心の癒しが必要だと感じ始めたボランティアの方が、編み物作業を通して女性たちの心に温かな思いを抱いていただければと、始まった。編み上げられた数々の作品は好評を博し、作品の商品化へと発展した。

この旅を計画する中で、何をお土産に持っていこうかと思案している時、「お土産にはぜひ毛糸を持ってきて下さい！」と伺っていた。急遽、会員や教会関係に呼びかけたところ、4つのダンボール

箱いっぱい集った。また、この旅の直前、名古屋YWCAではバザーがあり、岩手・宮城・福島の物産の一部として、ハートニットの編み物製品を並べ販売することができた。その売上金と共に、段ボール4つの毛糸を「お土産」としてお届けすることができた。

編み手の方々を、プロジェクトでは「アミマーさん」と呼ぶ。このアミマーさんたちを訪ねることも、この旅の大きな目的の一つだった。最初に平田仮設住宅集会所で、アミマーさんと交流。名古屋の販売会の様子等をお話しし、若い人向けに作られた製品など見せていただいた。

次に甲子仮設住宅のアミマーさんにお会いした。毛糸に出会って無心になれる時間が持てたこと、編み物が今の生活の大きな慰めになっていること、自分の作ったものが誰かの手に渡っている喜びを覚えていること、などを話してくれた。帰り際に、夫の定年前に建てた家が流されてしまい、まだまだ落胆、無念の思いがぬぐえないと話された時には、言葉もなく思わず涙してしまった。

「編み物をすることによって、何もない所から一歩前に進む勇氣と希望をもらいました」とおっしゃるアミマーさんたち。

心をこめて編み上げた作品が多くの人々の手に渡ってつながっていくこと、そしてその収益がアミマーさんたちのささやかな喜びになることを願って、これからの私達の活動を考えていきたいと強く思ったアミマーさんたちとの出会いだった。

(3) 岩手県沿岸部視察

今回の旅は、岩手県沿岸部の「今」を知る貴重な機会となった。

釜石では壊れた家屋が点在する中で、大槌町で家を流された被災者ボランティアさんから話を聞いた。「くよくよしていてもはじまらない。前向きに生きるためにボランティアしているのです」という言葉に頭が下がった。

大船渡・陸前高田・気仙沼の津波被災地を見てまわったが、更地になっているところに草が生え、その中に半壊家屋や打ち上げられた船が残されていた。その殺風景な風景は、かつての生活ぶりを想像することも困難な程であった。ただひたすら、言葉を失った。ある場所にはお地藏さんや十字架が置かれ、花が手向けられていた。思わず手を合わせた。一日も早い復興があるように。神から与えられたいのちそして自然が守られ、育まれ、生かされる日本、世界であるように。原発から再生エネルギーへの転換が前進していくように。そう祈った。



(3) 教会訪問

祈りの思いを抱きつつ、今回の旅では二つの教会を訪問させて頂いた。

まず私たちは、陸前高田キリスト教会を訪問した。森田牧師から当時の状況、今の思いなどをお聞きした。コーヒーのおもてなしを受け、阿部牧師の祈りをもって教会を後にした。

次に訪ねた千厩教会は危険建物となり、礼拝は信徒宅の広い部屋を利用していた。現在は移転地を決め、今後土地を購入し建築の準備をすすめているとのこと。更に驚いたことに、教会の軒下や雨樋の中では極めて高い放射能数値が出たという。この教会の敷地が「ホットスポット」となっていたのだ。原発爆発事故現場から遥かに遠く思われる岩手県にも、大きな影響がでていることに、驚かされた。

(4) まとめ

わずか3日間であったが実り多いものがあった。見たこと、聴いたこと、触れ合ったことを今後どのように活かしていくかを話し合っていきたい。

福島YWCA.東北ヘルプの皆さんの温かいご協力に感謝している。

2012年10月16日

名古屋YWCA会員 脇田純子(70歳)